

3 園評価書 (指標)

令和4年度 園評価書

園番号 21 園名 静岡市立東新田こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
自分が好き、友だちが好き、心豊かでたくましい子	たのしい・おもしろいを深める	子どもたちは、ひらめきや偶然の発見、驚きを楽しみながら、より面白くなるように身近な道具や素材を組み合わせて繰り返し試している	廃材コーナーにあるものや散歩先でみつけた自然物をあそびに取り入れ、年齢や発達にあった道具を使ったり、これまでの経験をもとに素材を組み合わせたり、友だちのアイデアを取り入れたりしながら繰り返し試している。保育者は子どもの興味や育ちに応じた素材の準備や一緒に考えるなどの援助を行った。	A	A	・保護者がアンケートの結果にも表れているが、保育者が適切な援助を行っていると思う ・保護者の立場から見ても、担任は子どもに寄り添って援助してくれている ・他学級の話もあるので、異年齢の友だちとの交流もあることがわかる ・カレー作りの話し合いでは隠し味について各家庭からのアイデアを持ち寄り、自分の家とは違うカレーの味をみんなで作り上げていた。「先生がこう言うだけどうしたらいいと思う？」と話し、家庭においてはよく発信できていると思う ・自分ごとを発信したり、相手を受け入れたらするために発信する力や保育者の援助が必要ではないかと思う	・子どもたちの気づき、ひらめきを捉え、それに合った様々な素材や道具を組み合わせて遊ぶことができるようになる必要に応じた素材や教材を準備する。また保育者はより面白くなるために素材や教材の研究を行っている ・思いの遣いに基づいたことを保育者や友だちと認め合い、安心して自分の思いを出すことができるようにしていく	
		子どもたちは、自分と違った考えにも出会えたり、自分の気持ちや言葉や草紙で表現し、友達とのかかわりを楽しんでいる	友だちと関わる楽しさを体験する中で自分の思いや気持ちを伝えることができる子は増えている。保育者が仲立ちとなり、小グループで話し合いの機会を設けることで自分と違う考えに出会い、それを受け入れることができるようになっていく。	B	A			
		子どもたちは、困った場面に出会った時に、自分なりの解決方法を見つけ、行動に起こそうとしている	子どもの困り感に丁寧に応えてきたことで保育者や友だちを頼りにしながら、自分なりの解決方法を見つけて行動しようとする姿が見られるようになってきているが、周りへの発信ができていないことが多い。	B	B			

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、それぞれの年齢の発達や成長を捉え、職員同士がコミュニケーションを取りながら、園全体で子ども理解を深めている	コロナ禍ということで年間を通し、他学年との交流が十分にできなかったが、運動会や発表会の後にお互いの学年の競技や劇を見せ合ったり一緒にしたりして交流した。公開保育を行う中で、他学年の様子を知ったり、事後研修で課題を話し合ったりすることで子ども理解につながった。研修のまめを休憩室に掲示し、普段から職員同士でコミュニケーションを図り交流している。	A	A	・園の中の様子はわからないことが多いが、園説明にあるようによくやってくれていると思う ・研修のまめを休憩室に掲示し、職員間で共有できていることは良いと思う	・感染症の状況に合わせて、職員同士が声を掛け合い、他学級、他学年の友だちと遊んだり、行事後のあそびの中で交流できる場を設ける
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は、保護者からの連絡を、それぞれの時間を担当する職員間で伝達しあうことができるように、受け入れをする職員、引き渡すする職員が責任をもって伝達をしている。細かな伝達については朝の打ち合わせノートに記入するようにしているが、十分に周知できていないこともある。	B	B	・伝達は確実にしてくれていると思うが、朝の忙しい時間に聞き取りがあるのは煩わしさを感じる保護者もいるかもしれない。健康カードにお迎えの人も時間をかき欄を設けてはどうか?	・引き続き伝達ノートを活用し、確実に伝達できるようにする ・健康カードの書式を見直し、保護者に記入してもらうことを徹底するとともに、クラス担任は毎朝必ず確認するようにしていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	園は、気付きを広げ、遊びを深めることができる時間や場、教材や素材を用意している	後期になり砂の種類を増やしたが十分に活用することができなかった。また赤土も夏以降はシートがかぶったままだった。マルチバネは運動会の競技にも取り入れるなどあそびが広がった。園庭をうまく活用することができます。子どもたちの気づきを広げたりあそびを深めることができなかつた。また発達にあった素材や教材についても研究が不足であった。	B	B	・コロナ禍においては、園庭を時間で区切って遊ぶことも仕方ないこと、その中で砂の種類を増やしたり、マルチバネを購入したりして十分にやっているとと思う
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、あと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリハットした出来事を記録、分析、職員間で周知し、事故予防対策を行っている	昨年度に比べ、事故の報告件数は減っている。ヒヤリハットが出た際は再発防止に向けて、対策したその後の状態まで記録していくようにした。ヒヤリハットの提出については分掌担当職員が呼びかけたことで、職員の意識が少し高まったが提出率はまだまだ低い。クラスで出たヒヤリハットについてはすぐに改善策を話し合い再発防止につながっているが、園全体への周知が月ごとに職員会議で月に1度の報告だけではタイムリーな共有ができず対策についての話し合いが不十分だった。	C	C	・まったく対策が取れていないということはないと思う (職員の自己評価が厳しい) ・ヒヤリハットの提出率が上がらないのは何故か? ヒヤリハットに対する意識が高まり多くの事例について話し合うことができるという良いのではないかとと思う ・とても大切なことなので頑張ってもらいたい ・学級開級は少しあったが、コロナが蔓延することになったのは日ごとの対策が十分できているからだと思う。引き続き対策を行ってほしい	・ヒヤリハットの提出率を上げるためにひと月に一人1枚以上提出するようにし、担当が提出していない職員には声をかけ提出の徹底を促していく ・引き続き再発防止や対策についての話し合いを行った。翌朝の打ち合わせで報告するなどタイムリーに周知できる場を設けていく ・対策後どうだったかの検証も継続していく
		(1)健康教育の充実	園は、毎日の健康管理 (健康カード) を行い、新しい生活様式 (うがい手洗い消毒、食事・午睡の場所や配置、十分な換気、クラス別保育) に対応している	コロナ対策としてクラス保育の徹底や食事、午睡時の対応、健康カードのチェックを確実にし、体調不良の子は別室保育をし感染防止に努めている。受け入れ時に子どもの様子の聞き取りは徹底できているが、家族についての聞き取りが徹底できていなかった。手洗いについては保育者の見守りが必要であると感じる。ハンカチの持参が少なかつたが働きかけも不十分だった。	A	A	
3 保健管理・指導	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人に合わせたサポートプランを作成し、アンパンマンの会での活動を担当者会議等で話し合った内容を園全体で共有した関わりをしている	担当者が丁寧にサポートプランを作成し、個々に合わせた支援を行っている。アンパンマンの会や担当者会議も計画的に話し合い、支援児の様子を伝え合っている。しかし、支援児の情報やアンパンマンの会の様子が園全体に共有できていない事も多いため、会議での報告の仕方を検討したり、ケース会議を行う必要があった。	B	B	・支援児に対する対応はしっかりできているのでAでもいいと思うが、園全体で共有していくことが必要だと考えると改善の余地はある	・サポートプラン作成の際に担当保育者だけでなく園全体で共有することができるよう、会議の中でケース検討を行う ・オレンジサロンを1回は実施し保護者と子どもの育ちを共有していく。また外部講師を招き研修を行い支援児の理解を深める
		(1)組織体制の充実	園は、園務分掌担当者を中心に見通しをもって企画をし、状況に応じた運営をしている	分掌担当者が中心となり行事の企画運営を行っているが、必要に応じて全体で話し合っ進めていくとともにスムーズな運営ができたのではないかと感じる。担当以外のところでも分掌された仕事や作業について協力し、準備から当日までスムーズに進んでいる。	A	A	・園運営については内部の様子を見ることができないのでわからないこともあるが職員員の自己評価がAということも、園全体で協力体制がとれスムーズな園運営ができているということだと感じる
4 特別支援教育・保育	(1)研修体制の充実	園は、研修テーマ「子どもの気づきやひらめきに寄り添い、探究心を高める保育教諭の援助」に向けて、保育実践と研究を重ねている	研修テーマに沿って、事前・事後研修、公開保育を行うことで視点を意識した子どもの育ちを捉えて話し合いをすることができた。一方で研修に参加できない職員も多く、内容を伝えきれなかつたり、参加した職員にも内容が難しいと感じられたり、方向性が曖昧になってしまったりして深めることまでいかない部分もあつた。	B	B	・職員自身への評価が厳しいと思う。研修の支那側も園としてよくやっているので引き続き頑張ってもらいたい	・保育者の引き出しを増やしていくために、他分掌と協力して教材研究や、特別支援研修を行っていく ・経験年数や職種に関係なく気軽に保育を見たり、相談しあつたりできるように週日案研を行う
		(1)教育・保育環境の充実	園は、備品、遊具等の配置、保管を適切に行い、日頃から教育・保育環境の整備に努めている	子ども達が使いやすい片付けしやすい環境を工夫してきたことで、物を大切に扱い、使い終わったから元の場所に返すという意識が高まってきたように思う。各保育室は担任が責任をもってやることのできているが園庭やホール、玩具倉庫や廃材コーナー、教材置き場等共有部分の整理整頓が不十分だった。	B	A	・保育者さんが園庭の玩具が片付けやすいように棚を作ったり、花の手入れをしたりすることで園内の整備はよくできている
5 組織運営	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、日々の活動や遊びを通した学びのつながり、日頃から教育・保育ボード等で可視化して伝えている	玄関に写真付きでエピソードを書き、掲示したり日の子どもの様子を伝えたり、クラス (学年) だよりでその月のあそびから子どもたちの育ちや学びを伝えたりしている。送迎が祖父や家庭もあつた。日々の様子が伝わらないこともあるため、伝わりやすい方法や内容の書き方について検討する必要があつた。	A	A	・毎日見ることができない保護者もいるので、2日分くらい見るとともに前日の子どもの様子や持ち物などもわかり、より伝わりやすくなると思う	・日々のボードでその日の子どもの様子を伝えるとともに、その活動による育ちや学びについても写真を活用しながら保護者にわかりやすく伝えていく ・あそびのつながりや広がりがあるように2日分のボードを掲示する
		(1)近隣の園との連携の推進	園は、支部拠点園として公開保育や交流活動を計画、実施し、乳幼児期に育ってほしい姿を共有した育ちや課題について共通理解を図っている	11月に支部拠点園、1月に幼小接続の公開保育を行った。支部公開保育時にはコロナ対策のため事前研修は園内の職員のみで行ったが、事後研修は支部の職員にも参加してもらい意見交換をすることで、育ちや課題について共通理解を図ることができた。小学校に向けてはもう一歩踏み込んだ交流や発信ができてよかった。	A	A	・久しぶりで開催されたふれあい祭りへの参加、ありがとうございました ・小学校への体験入学も開催できた。もっと交流できた方がいいが複数の園からの入学があり対応が難しい ・今年度は天候が悪い日やコロナがあり、計画通りでない回数もあつたが、2月のせききれいな年長を2班におよび来てくれたのは良かった ・「信頼される園づくりの推進」の観点からみると園は十分よくやっていると
6 研修	(1)信頼される園づくりの推進	園は、勤務感謝訪問、地域の自治会、せききれい会、連携園との交流会等を実施したり、おしゃべりサロンを開催したりして地域との連携を図っている	年間を通し、コロナの感染状況を見ながら交流の仕方を工夫してきた。計画通りに行えないこともあつたが、方法を変えて行うことができた。勤務感謝訪問では各学年毎地域の方たちに感謝の気持ちを伝え、地域とのつながりを感じることができた。	B	A		・その時に適した交流の仕方を工夫しながら、地域との連携を図っていく